



ノースウイング バックナンバーより ③

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。

詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。

*団体名や肩書は掲載当時のものです

22号

2017年 発行 P15-16

篠路歌舞伎保存会

会長 大高 英男さん

「篠路歌舞伎保存会」創立30周年を迎えた2016年、記念祝賀会が盛大に行われました。保存会設立のきっかけは、1985年の「篠路コミュニティセンター」開館記念祝賀会に余興として、「ほてから座」が歌舞伎を公演したこと。これが歌舞伎復活を求める大きな声となりました。



ほてから座による演目「白浪五人男」

2017年 発行 P31-32

22号

屯田郷土資料館運営委員会

会長 坂田 文正さん

屯田兵入植100年を機に建設された屯田郷土資料館。開設から2016年10月末まで、入館者は累計63612人(掲載時)。多くは北区在住の人ですが、他の区や道内、さらには道外の方も見学に訪れてています。説明員が常駐していますので、解説を聞きながら見学できます。



見学に来た小学生に解説をする説明員

2012年 発行 P57-58

19号

あさぶ亜麻保存会

会長 宮崎 正晴さん

2011年2月、亜麻に関する活動をしていた「ふらっくす俱楽部」の永倉吉裕さんと麻生まちづくり協議会のメンバーが集まり、麻生の町名の由来になつた亜麻を後世に残したいと亜麻保存会の設立準備会を設置。同年6月、名称を「あさぶ亜麻保存会」として、発足しました。



亜麻の歴史や育成方法を紹介した冊子「あまのわ」



北区歴史と文化の八十八選
「50／屯田郷土資料館」



北区歴史と文化の八十八選[72]／篠路獅子舞



北区歴史と文化の八十八選
「44／帝国製麻琴似亜麻工場跡」

4号

1997年 発行 P34-37

新琴似歌舞伎伝承会

(前)事務局長 小野寺 孝さん

1996年3月、約80年ぶりに復活のノロシを上げた新琴似歌舞伎。同年8月には、篠路子ども歌舞伎との合同公演に出演し、「北区に歌舞伎あり」という気概を見せてくれました。けいこ指導にはプロの歌舞伎俳優・中村歌女之丞(かめのじょう)さんも応援にかけつけました。



中村歌女之丞さんによる稽古風景

5号

1998年 発行 P76-80

篠路獅子舞保存会

副会長 中西 復一さん

1997年、春から神社氏子に声をかけ保存会の輪を広げていくことになりました。烈々布の43人と新たに加入した40人で、烈々布獅子舞から篠路獅子舞と呼び名を変え、今後の芸能伝承へ向かうことに。同年7月、継承設立を行い、新たな役員を選出、再出発しました。



1996年に行われた140年祭